



# 2017年12月期 決算説明資料

第3四半期

2017年11月6日（月）  
株式会社ワールドホールディングス  
東証1部（2429）

## I. 2017年12月期 第3四半期決算概要

- ・ 決算業績概況 … P3
- ・ セグメント別業績概況 … P4
- ・ 予算進捗 … P5
- ・ セグメント別 概況サマリー … P7
- ・ 各セグメント詳細 … P8
- ・ 財政状態 B/S … P15

## II. 2017年12月期 業績予想

- ・ 2017年12月期 通期業績予想サマリー … P17
- ・ セグメント別 通期業績予想 … P18
- ・ 株主還元 … P19

## Appendix

- ・ ニュースリリース … P21

# I. 2017年12月期 第3四半期決算概要



# 決算業績概況

売上高については全セグメントで増収。人材・教育ビジネスは7期連続増収。  
利益については不動産ビジネスにおいて、昨年度は第3四半期までに物件の引き渡し  
が集中していたため大きく減益となっているが、通期進捗は予定通り。

(単位: 百万円、%)

	2016/3Q 実績	2017/3Q 実績	前年同期比		通期予算 (※)	通期予算に 対する 進捗率
			増減額	増減率		
売上高	69,675	83,718	14,042	20.2	123,846	67.6
営業利益	6,506	3,399	△3,106	△47.8	6,270	54.2
経常利益	6,454	3,375	△3,078	△47.7	5,936	56.9
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,678	2,256	△1,421	△38.7	3,519	64.1

※2017年2月13日発表

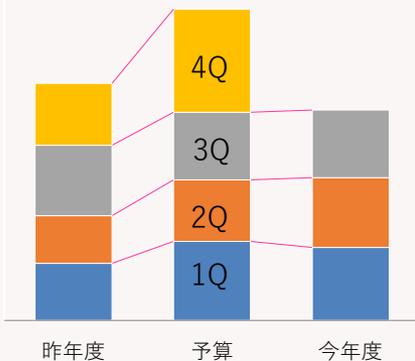
# セグメント別業績概況

- **人材・教育ビジネス**：採用・育成・定着の仕組づくりの定着により大幅増収増益
- **不動産ビジネス**：変動幅の大きい事業特性を掌握。年度予算達成に向け販売が順調に推移
- **情報通信ビジネス**：エリア戦略を点から面へシフト、店舗増・改装の投資を先行

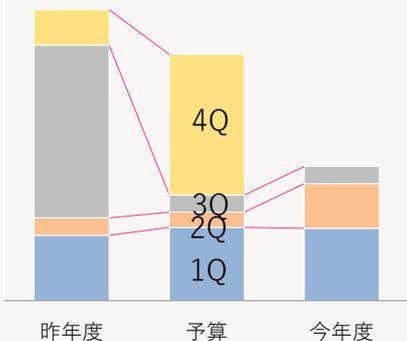
		2016/3Q 実績		2017/3Q 実績		前年同期比		通期予算 ※ (利益率)	通期予算に 対する 進捗率
		(利益率)		(利益率)		増減額	増減率		
単位：百万円、%									
人材・教育ビジネス	ファクトリー事業	売上高	21,623	29,342	7,718	35.7	34,299	85.5	
		セグメント利益	1,539 (7.1%)	2,044 (7.0%)	505	32.8	2,242 (6.5%)	91.2	
	テクノ事業	売上高	7,437	9,028	1,590	21.4	11,818	76.4	
		セグメント利益	772 (10.4%)	959 (10.6%)	186	24.1	940 (8.0%)	102.0	
	R & D 事業	売上高	4,022	4,703	680	16.9	6,400	73.5	
		セグメント利益	361 (9.0%)	437 (9.3%)	75	21.0	582 (9.1%)	75.0	
	セールス&マーケティング事業	売上高	4,021	4,450	429	10.7	6,500	68.5	
		セグメント利益	236 (5.9%)	195 (4.4%)	△41	△17.4	397 (6.1%)	49.2	
計 (参考)		売上高	37,105	47,523	10,418	28.1	59,018	80.5	
		セグメント利益	2,910 (7.8%)	3,636 (7.7%)	726	25.0	4,163 (7.1%)	87.4	
不動産ビジネス	不動産事業	売上高	26,422	27,349	926	3.5	50,685	54.0	
		セグメント利益	4,999 (18.9%)	1,198 (4.4%)	△3,800	△76.0	3,702 (7.3%)	32.4	
情報通信ビジネス	情報通信事業	売上高	5,796	6,618	822	14.2	10,198	64.9	
		セグメント利益	164 (2.8%)	86 (1.3%)	△78	△47.5	245 (2.4%)	35.2	
その他	その他事業	売上高	350	2,226	1,875	534.7	3,943	56.5	
		セグメント利益	12 (3.7%)	△42	-	-	36 (0.9%)	-	
合 計		売上高	69,675	83,718	14,042	20.2	123,846	67.6	
		消去又は全社 営業利益	△1,581	△1,479	101	-	△1,877	-	
			6,506 (9.3%)	3,399 (4.1%)	△3,106	△47.8	6,270 (5.1%)	54.2	

# 予算進捗 / 「連結」 & 「人材・教育ビジネス」

## 連結

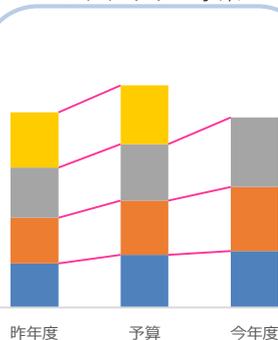


売上高ほぼ計画どおり推移、利益は人材・教育ビジネスがけん引し大幅に過達

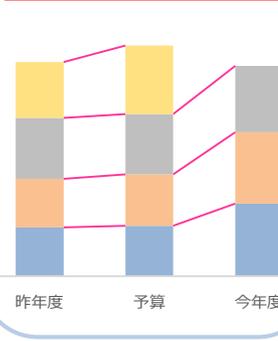


## 人材・教育ビジネス

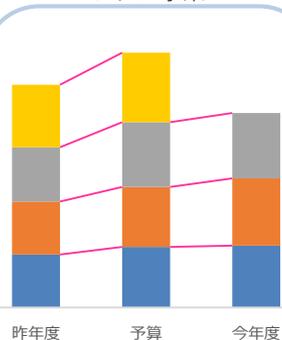
### ファクトリー事業



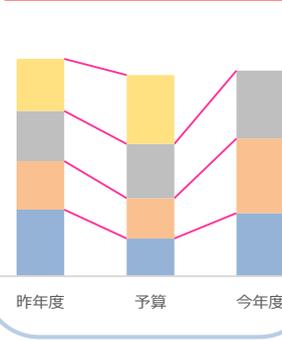
大型案件対応・請負規模拡大等により、売上利益とも予算大幅過達



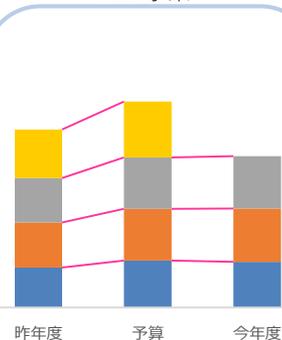
### テクノ事業



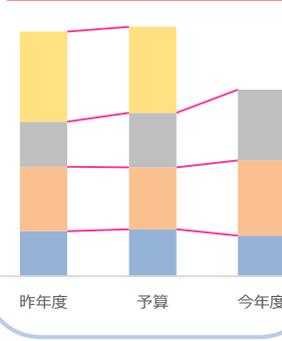
育成人材の実績を強みに好条件の案件にシフトし、売上利益とも順調に推移



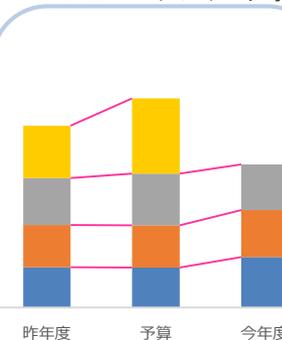
### R&D事業



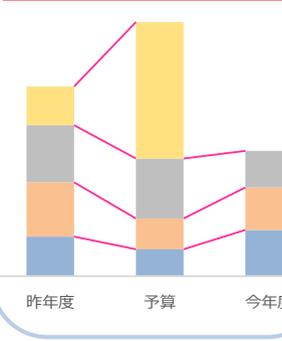
帰属意識の高い社員の育成により、戦略的にチャージ適正化を図り増益



### セールス&マーケティング事業



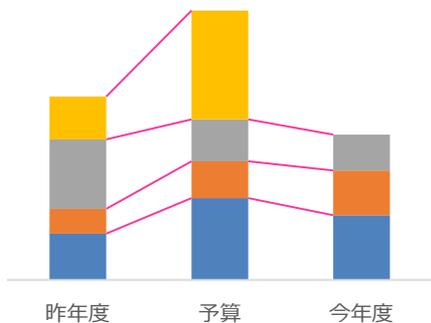
事業領域の再整備、拠点の再配置、管理部門の強化等の環境整備に注力



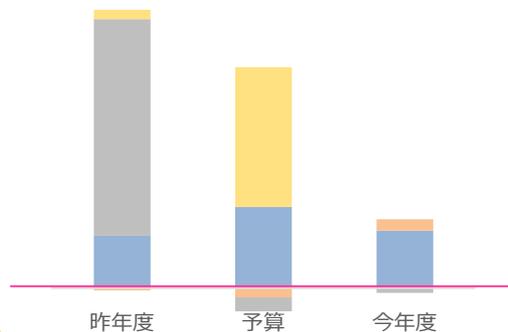
※上段：売上高 下段：セグメント利益 (ただし、連結のみ下段は営業利益)

# 予算進捗 / 「不動産」「情報通信」「その他」

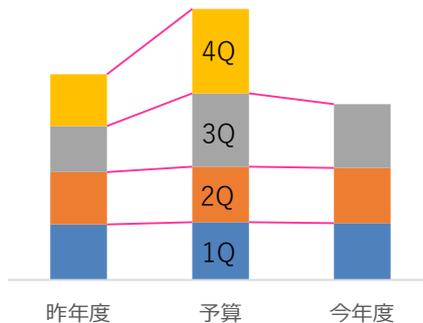
## 不動産ビジネス



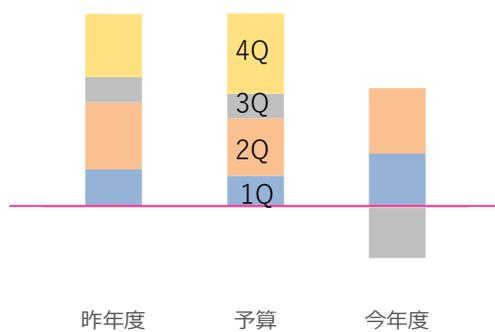
当第4四半期以降に引き渡し集中達成に向け順調に進捗



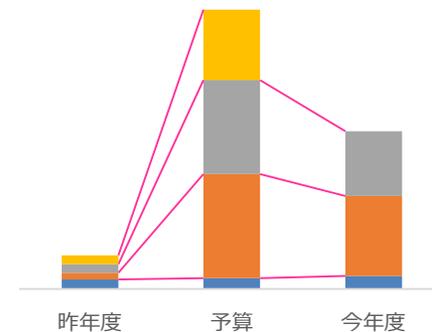
## 情報通信ビジネス



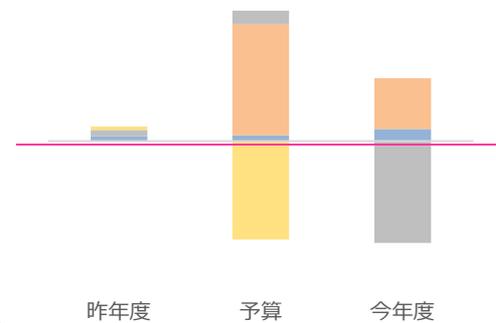
さらなる優良店舗網の構築と新規出店等の投資を先行



## その他



(株)ファームが行う農業公園の早期再生に向けた綿密な調査や体制整備に投資



※上段：売上高 下段：セグメント利益

# セグメント別 概況サマリー

## 2017年の重点施策

### 人材・教育ビジネス

- ・人材プラットフォーム構築に向けたキャリア形成体制の充実化
- ・求職者の志向を蓄積、ワンストップサービスによる多様な人材の受け皿、双方向マッチングの基盤整備

### 不動産ビジネス

- ・回収期間の短い事業(リノベーション・戸建関連)の強化・立上げ
- ・デベロップメント関連におけるROI※が極大化する領域・時機を見極めた事業化

### 情報通信ビジネス

- ・携帯ショップ既存店舗の環境改善と新たな優良店舗の出店
- ・法人に向けた複数商材によるトータルコスト削減ソリューションサービスの確立

※return on investment・・・投資対効果

## 第3四半期までの状況

売上高

+28.1%

前年同期比

セグメント利益

+25.0%

前年同期比

### ・キャリア形成支援の整備

➡ 完了・運用開始

採用費減・育成人材増・定着率向上

### ・更なる強化に向けシステム投資開始

➡ 流動化を視野に今以上に人材の見える化を準備

売上高

+3.5%

前年同期比

セグメント利益

△76.0%

前年同期比

### ・ポートフォリオの構築

➡ リノベーション、戸建の確実な成長  
(売上構成比率51.8%、9月末時点)

➡ 変動の大きな事業特性を見極め、  
地域・市況に合わせた柔軟な仕入れ  
・販売が戦略的に可能な運営体系を構築

売上高

+14.2%

前年同期比

セグメント利益

△47.5%

前年同期比

### ・第二成長期へ向けたマーケティングの追求

➡ 16店舗増

### ・法人向けサービスの確立

➡ LED照明販売を中心とした環境事業に注力

# ファクトリー事業

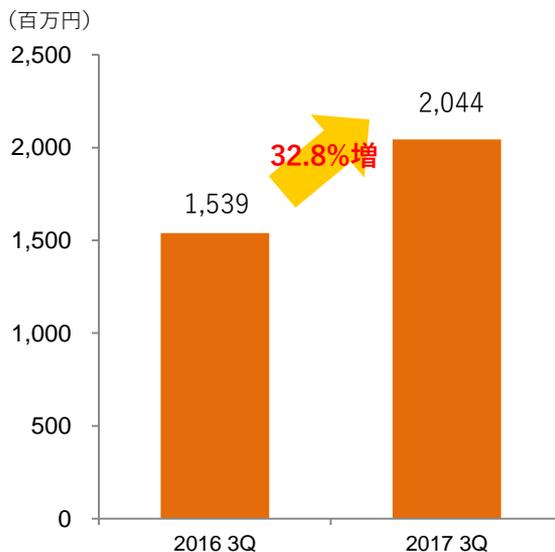
## < 分野別売上高・構成比と在籍数 >

- 管理社員のチーム化・流動化により、大型案件の効率的な立ち上げと安定稼働が可能となり、採用コスト削減・定着率改善効果が増加
- 物流分野において、請負の高度化をすすめ、生産性向上・組織階層化・リーダー層の人材育成により、顧客内シェアを拡大

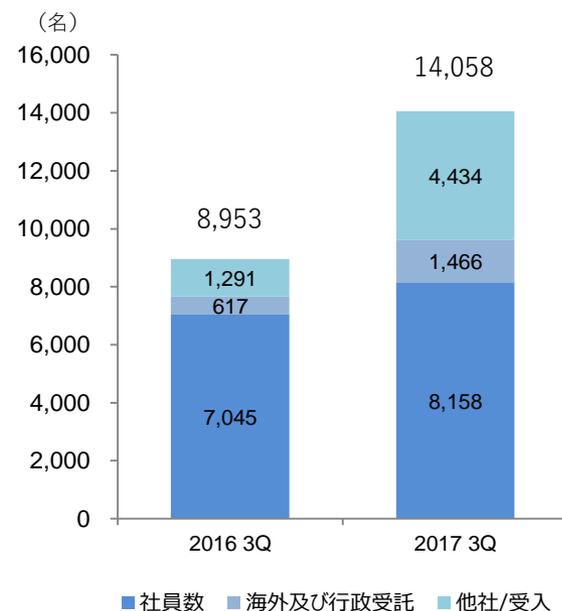
◆ 分野別売上高と売上高構成比



◆ セグメント利益



◆ 在籍数の推移 (3ヶ月平均)



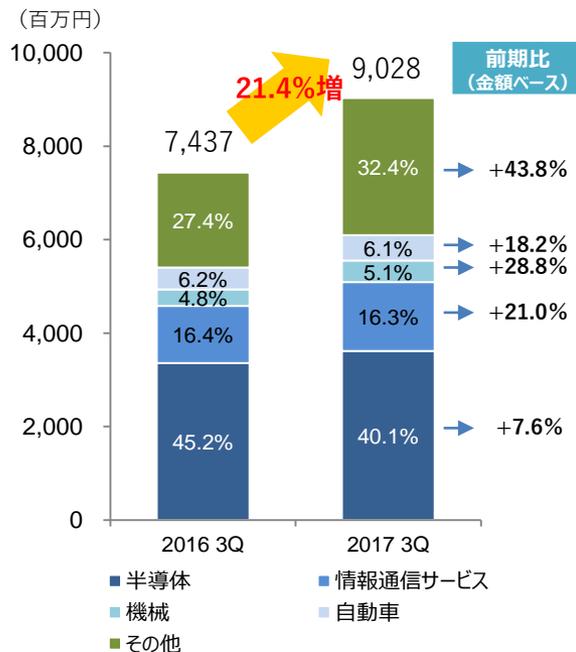
※在籍は3か月平均 他社受入の外部人員を含む  
※在籍数は現業社員のみ

# テクノ事業

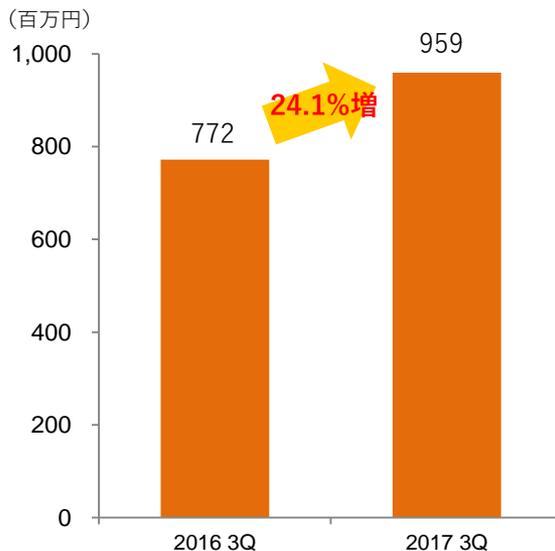
## <分野別売上高・構成比と在籍数>

- エンジニア育成のために設立したデザインセンターにおいて、未経験者を自動車・装置の機械設計エンジニアとして安定輩出する機能が定着し、在籍人数が増加
- ニーズの高い専門技術（サーバー仮想化・JAVAプログラミング・組込み制御等）の人材育成カリキュラムを拡充し、既存社員のスキルの裾野を広げ、配属先の拡大とチャージアップ効果の拡大を図る

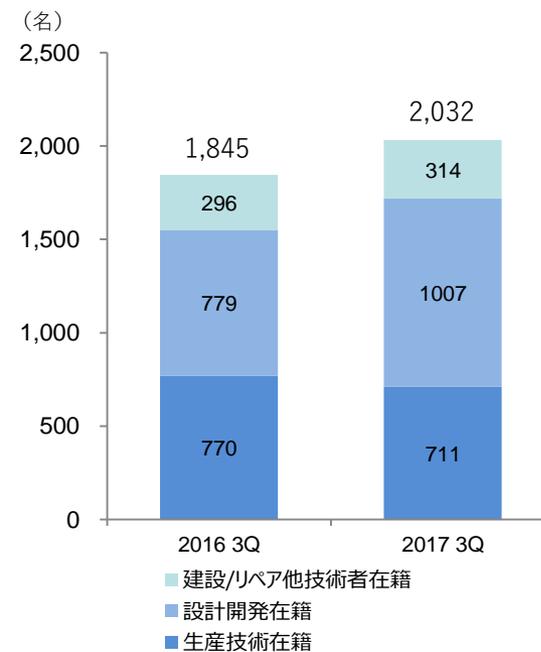
◆ 分野別売上高と売上高構成比



◆ セグメント利益



◆ 在籍数の推移 (3ヶ月平均)



※在籍は3か月平均  
 ※在籍数は現業社員のみ

# R & D 事業

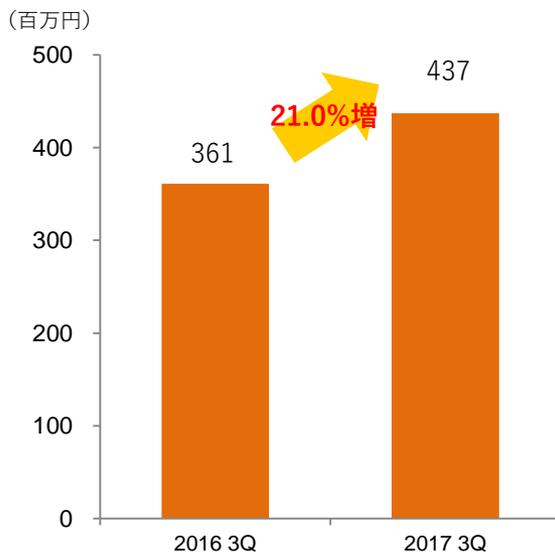
## < 分野別売上高・構成比と在籍数 >

- 研究者としてのスキルアップだけでなく、帰属意識が高く人間性豊かな社員の醸成によって、数ではなく質を追求、更なる高領域への進出を図る
- 高度専門技術を有した研究者の育成体制を大学研究機関（P.21参照）と構築
- DOTワールド(株)は、案件の大型化が進む中、戦略的な採用手法の変更や管理システム導入等の効率的な業務遂行の仕組み作りを推進

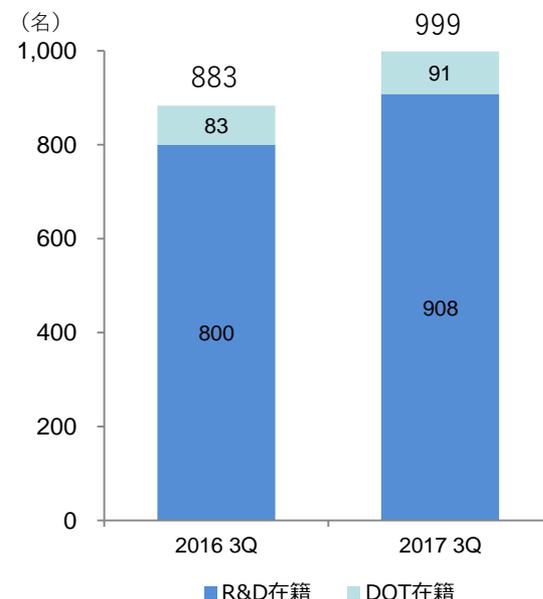
◆ 分野別売上高と売上高構成比



◆ セグメント利益



◆ 在籍数の推移 (3ヶ月平均)



※在籍は3か月平均  
 ※在籍数は現業社員のみ

# セールス & マーケティング事業

## < 分野別売上高・構成比と在籍数 >

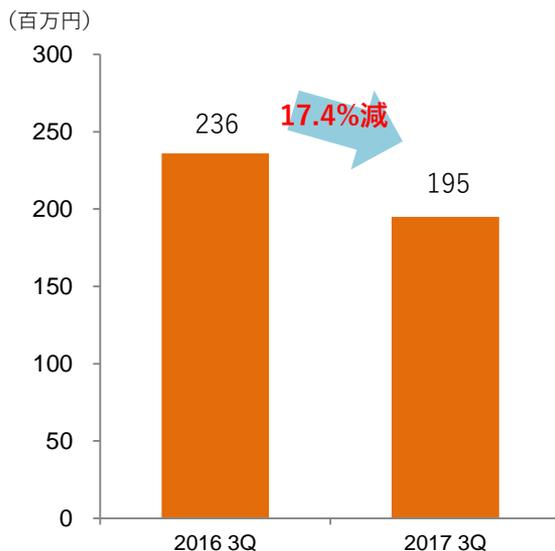
- これまで拡大した規模をベースに、取り扱い職種・事業領域の選択と集中によって増収
- 不安定なマーケット（登録型派遣）において、強固な基盤作りに注力、適正規模を見直し、拠点の再整備・管理部門の強化などの環境改善へ先行投資

◆ 分野別売上高と売上高構成比

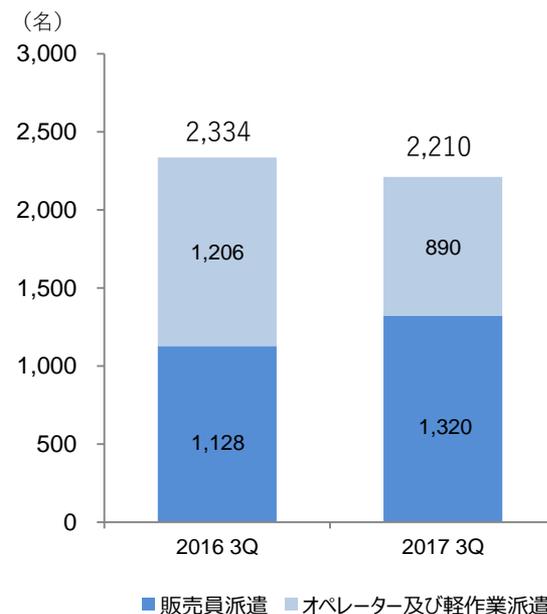


今期より当社独自の呼称である「CB部門」及び「OCS部門」を廃止し、「販売員派遣」、「オペレーター及び軽作業派遣」へと変更しております

◆ セグメント利益



◆ 在籍数の推移（3ヶ月平均）



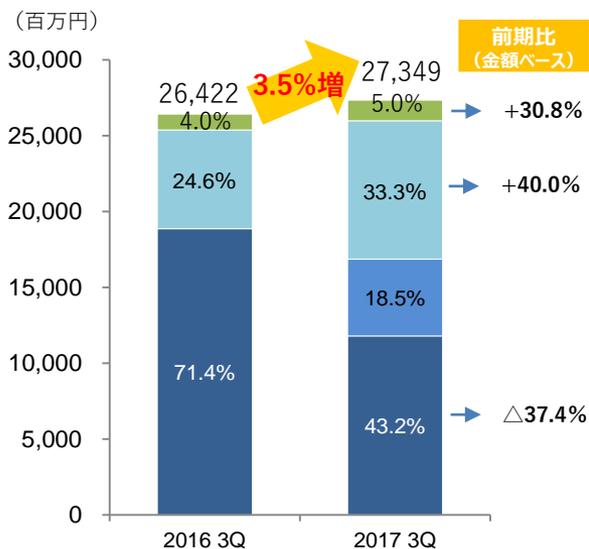
※在籍は3か月平均  
※在籍数は現業社員のみの数字

# 不動産事業

## <業態別売上高・構成比と主な取り組み>

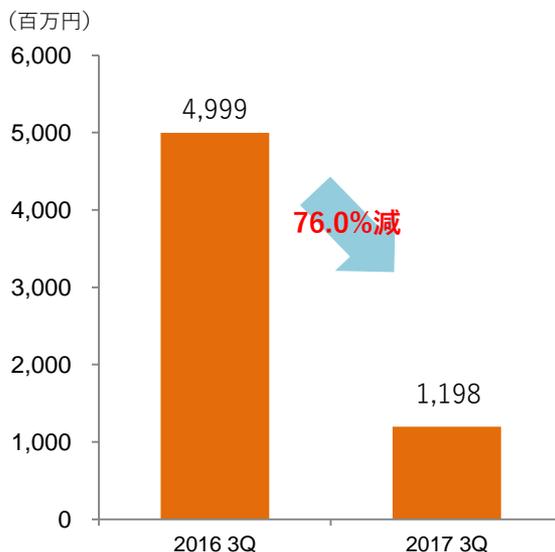
- デベロップメント関連は、昨年度、変動の大きな事業特性を確実に捉え高収益だったが、今年度の引渡しは第4四半期以降へと集中。通期予算に向けた販売は順調に進捗中。仕入は市況を見極め慎重に対応。
- リノベーション関連は、ブランディングを強化し、強い地域に集中することで順調に成長
- 戸建住宅関連は、販売が好調の中、新規分譲地の開発に加え、既存事業とのシナジーによる東北エリア拡大に向け準備
- ユニットハウス関連は、九州地区が活況の中、新製品の開発を促進

### ◆ 業態別売上高と売上高構成比



■ デベロップメント関連 ■ 戸建 ※戸建は2017 1Qより  
■ リノベーション関連 ■ ユニットハウス関連

### ◆ セグメント利益



### ◆ 戸建住宅の販売が順調に推移



豊栄建設(株)が札幌市の新発寒に開設した大規模分譲地での販売が好調

### ◆ 新製品「トイレハウス」が高い評価



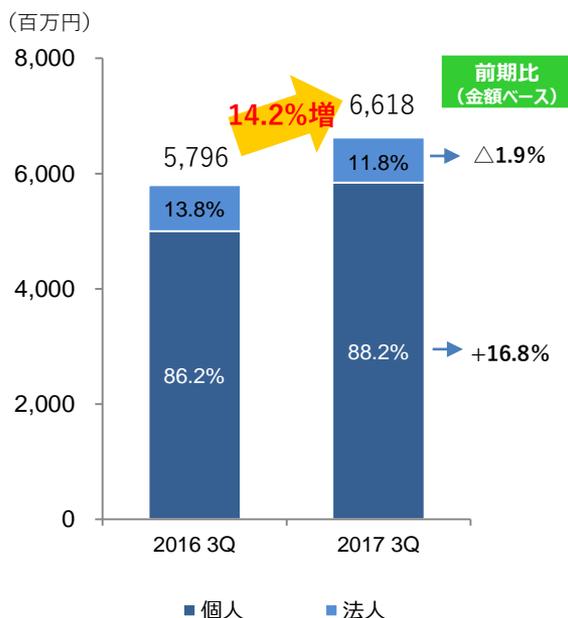
(株)オオマチワールドの「トイレハウス」がNPO法人日本トイレ研究所の認定を獲得

# 情報通信事業

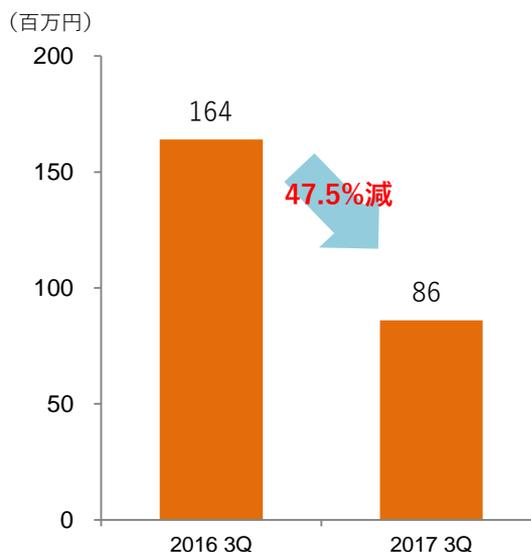
## <売上高と主な取り組み>

- 近隣のエリアマーケティングとM&A戦略に基づき地域シェアを拡大、新たに16店舗を加え直営店が49店舗に
- さらなる優良店舗網構築のため、既存店舗の移転・大型化等の環境改善へ先行投資

### ◆ 仕向け別売上高



### ◆ セグメント利益



### ◆ 16店舗を新たに追加



### ◆ 既存店舗の移転・大型化を推進



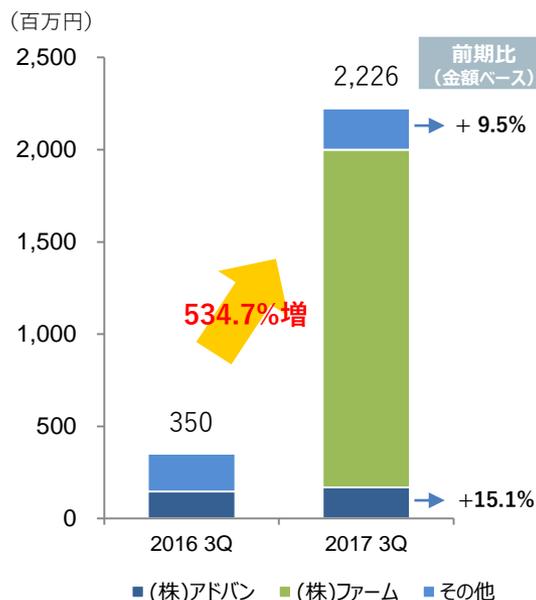
優良店舗網の構築で顧客の囲い込みを推進

# その他事業

## <売上高と主な取り組み>

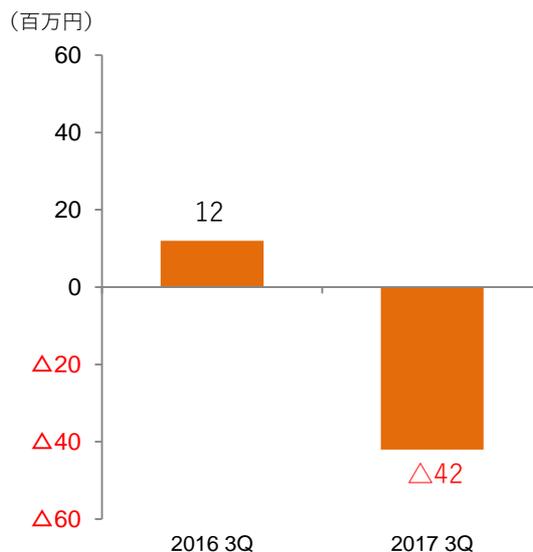
- (株)アドバンは、好調なスクール運営・Web制作に加え、人材・教育セグメントのエンジニア育成カリキュラムを拡充し技術者のスキルアップに寄与
- 農業公園事業を行う(株)ファームは、早期再生に向け、人員体制の再整備・意識改革による運営基礎力の強化を行い、来期に向けた投資の準備を実施

### ◆ 売上高



※ 2017/12 2Qより、(株)ファームを新規連結

### ◆ セグメント利益



### ◆ アドバンとテクノ事業の連携による専門研修



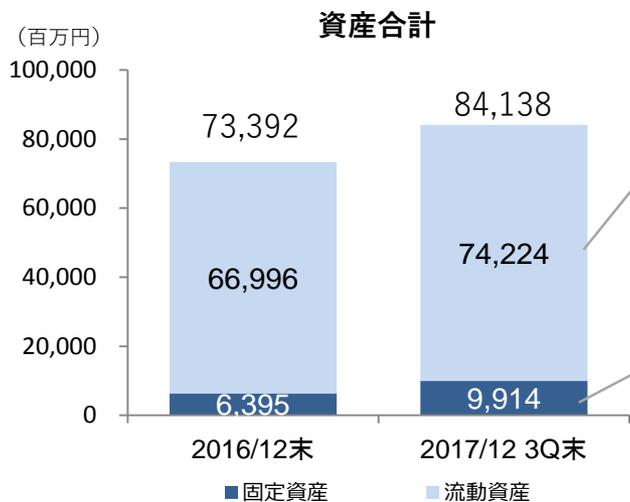
(株)アドバンが人材・教育セグメントのITエンジニアのスキル向上に寄与

### ◆ 農業公園事業は来期に向け整備



各施設の特性を活かした集客施策、冬の閑散期を活用した施設の再整備への投資準備

## ● 販売用不動産と子会社取得にかかる資産・負債の増加



流動資産 74,224 (+7,228)

・ 販売用不動産の増加額

2,207百万円

固定資産 9,914 (+3,518)

・ 有形固定資産の増加額 ※  
※子会社取得による

2,488百万円

・ のれんの増加額

476百万円



負債 67,433 (+9,504)

・ 短期借入金の増加額 ※

4,900百万円

※販売用不動産の購入資金、及び子会社株式取得資金

純資産 16,705 (+1,241)

・ 利益剰余金の増加額

980百万円

## II. 2017年12月期 業績予想



# 2017年12月期 通期業績予想サマリー

- 8期連続の増収、新中期経営計画に基づく基盤強化

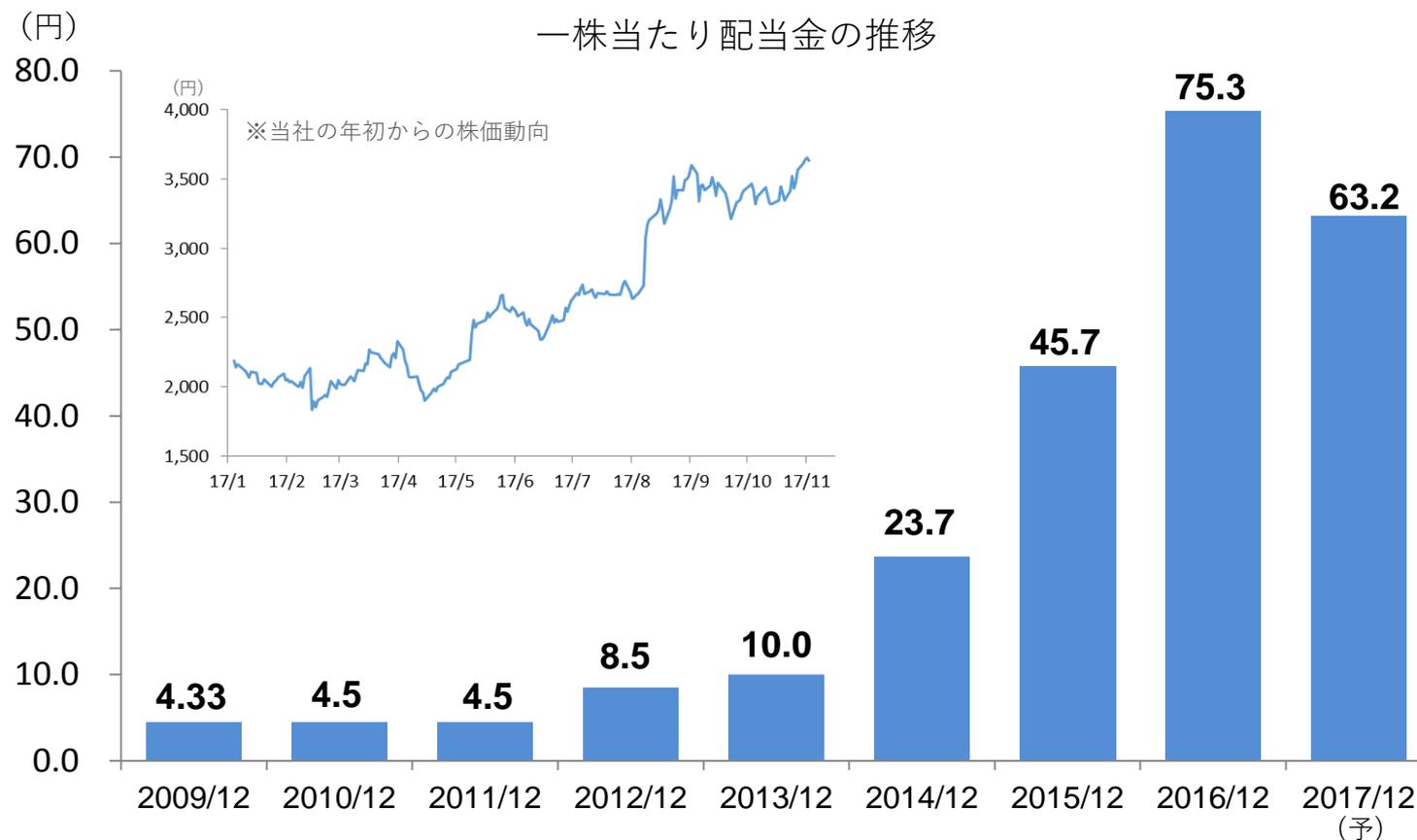
単位：百万円、%	2016/12 実績	2017/12 予想	前期比	
			増減額	増減率
売上高	94,334	<b>123,846</b>	29,512	31.3
営業利益	7,407	<b>6,270</b>	△1,137	△ 15.4
経常利益	7,306	<b>5,936</b>	△1,369	△ 18.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,192	<b>3,519</b>	△672	△ 16.0
一株当たり利益（円）	250.92	210.63	<b>△40.29</b>	△ 16.1
一株当たり配当金（円）	75.3	63.2	<b>△12.1</b>	△ 16.1

# セグメント別 通期業績予想

## ● 全セグメントで増収の見込み

単位：百万円、%			2016/12 実績	(利益率)	2017/12 予想	(利益率)	前期比	
							増減額	増減率
人材・教育ビジネス	ファクトリー事業	売上高	30,111		34,299		4,187	13.9
		セグメント利益	2,080	(6.9%)	2,242	(6.5%)	162	7.8
	テクノ事業	売上高	10,334		11,818		1,484	14.4
		セグメント利益	1,015	(9.8%)	940	(8.0%)	△74	△7.4
	R & D 事業	売上高	5,533		6,400		867	15.7
		セグメント利益	571	(10.3%)	582	(9.1%)	10	1.9
セールス&マーケティング事業	売上高	5,654		6,500		845	15.0	
	セグメント利益	296	(5.3%)	397	(6.1%)	100	33.9	
計(参考)		売上高	51,633		59,018		7,384	14.3
		セグメント利益	3,964	(7.7%)	4,163	(7.1%)	198	5.0
不動産ビジネス	不動産事業	売上高	34,481		50,685		16,204	47.0
		セグメント利益	5,171	(15.0%)	3,702	(7.3%)	△1,468	△28.4
情報通信ビジネス	情報通信事業	売上高	7,742		10,198		2,455	31.7
		セグメント利益	244	(3.2%)	245	(2.4%)	0	0.3
その他	その他の事業	売上高	476		3,943		3,467	727.8
		セグメント利益	17	(3.7%)	36	(0.9%)	18	103.9
合 計	売上高		94,334		123,846		29,512	31.3
	消去又は全社		△1,990		△1,877		(—)	(—)
	営業利益		7,407	(7.9%)	6,270	(5.1%)	△1,137	△15.4

## 配当性向は目標30%



※業績予想及び配当予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

# Appendix



## 京都大学及び大阪府立大学との 共同研究契約締結

R&D事業部（株ワールドインテック）において  
国立大学法人京都大学化学研究所・寺西研究室及び  
公立大学法人大阪府立大学生命科学研究科・乾研究室と  
共同研究契約を締結。

当社は、両研究室それぞれとの共同研究を通じて  
高度専門技術を有した研究員を育成してまいります。

### 国立大学法人京都大学化学研究所/寺西研究室

次世代ナノ技術の研究を支援しながら、実践を通して、社員に  
対し分析化学、化学合成分野の機器技術の習得を支援します。

### 公立大学法人大阪府立大学生命科学研究科/乾研究室

研修教育プログラムを組み込んだ共同研究を通して、バイ  
オインフォマティクス人材を育成します。

## 女性（ママ）の働く意識調査結果発表 ～1,000ママプロジェクト～

福島県内に居住する **1,000人の女性（ママ）** を対象に  
「働くこと」に対する意識調査を実施。



当意識調査は、一般社団法人Stand for mothersによって運営されてい  
る「暮らしづくりビレッジ」と、(株)ワールドインテック福島が運営す  
る「おしごと百貨店」（民間型ハローワーク）が共同で実施

詳細は、2017年11月6日開示のリリースをご参照ください。

# 本資料に関するお問い合わせ

株式会社ワールドホールディングス

経営管理本部 広報IR室 西原 範朗

TEL 03-3433-6005

E-MAIL [irinfo@world-hd.co.jp](mailto:irinfo@world-hd.co.jp)

URL <http://www.world-hd.co.jp/>

本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。また、本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点での弊社の判断であり、その正確性を保証するものではなく、今後、予告なしに変更される事があります。万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。